

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

政策No.	2	政策名	ともに生き支えあうまちの形成	施策主管課	健康増進課
施策No.	15	施策名	母子保健の充実	施策主管課長名	齊藤 美穂
施策関連課名					

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	A)母(0歳～3歳児の母) B)子ども(0歳～3歳児)	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A	0歳～3歳児数	単位	人
	(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)		B			
A)安心して妊娠・出産し、育児ができる B)健やかに育つ		(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	①	乳幼児健診受診率	単位	%
			②	子育ては楽しいと感じる母の割合	%	
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	①	乳幼児健診受診の状況を示す/乳幼児の健やかな育ちのためには、乳幼児健診において疾病などを早期発見し、健診結果により適切な指導を行うことが重要であるため、成果指標とした。	③			
	②	子育てに対する母の安心感を示す/乳幼児の母が安心して育児ができていれば、子育ての楽しさが感じられるようになると考え、成果指標とした。	④			
	③					
	④					
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	①	4ヶ月、10ヶ月、1.6歳、2歳、3歳児の各健診対象者数÷各健診受診者数×100の平均				
	②	4ヶ月、10ヶ月、1.6歳、2歳、3歳児の各健診においてアンケート『子育ては楽しいと感じますか』において肯定的回答をした母の割合÷各健診受診者×100の平均				
	③					
	④					

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 0歳～3歳児数	人	見込み値					2,163	2,128	2,014	1,967	1,912	1,867
		実績値	2,233	2,213	2,226	2,236	2,163					
		見込み値										
		実績値										
成果指標 ① 乳幼児健診受診率	%	目標値	-	-	-	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		実績値	97.2	97.7	98.1	98.4	96.9					
		目標値	-	-	-	-	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	
		実績値	87.6	88.1	87.0	86.5	86.1					
		目標値										
		実績値										
		目標値										
		実績値										

目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)

- ① 母子保健法により、乳幼児健診は全員の方に受診してもらいたいので100%受診を目指す。
- ② これまでの推移では減少傾向であり、成り行きではさらに減少することが想定される。現況値(平成30年度実績)は86.5%だが、子どもの年齢別の内訳では、4か月児の母が最も高く90%であるため、それ以降の年齢でも継続してこれを維持するということで、目標値を90%とした。
- ③
- ④

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長発達を確認する機会として、乳幼児健診は必ず受診する。 母は育児などに困った時、誰かにSOSを出し、周囲の人は母子を見守り、助ける。 市内の子育て支援センターは、市と情報を共有し、連携して母の育児を支援する。 愛育組織を含めた地域は母と子を見守り、声かけをして子育てしやすい環境づくりを心がけると共に、子育て支援などのイベントを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠期からの途切れない相談体制を充実させ、子育て支援課と連携を図り包括支援機能を強化できるようにする。 受診しやすい乳幼児健診の体制づくりをする。 マタニティスクールなどにおいて、育児技術習得の支援をする。 地域へ母子保健事業などの母子を取り巻く環境の情報を提供し、現在の母子保健の状況を周知していく。

4 施策の状況変化・住民意見等

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R3年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> 若者世代の減少などにより子どもの数が減り、少子化はますます進むと予測される。 子育てを楽しいと感じる母が、減少傾向にある。 共働きする親の増加により、保育所に入所する乳幼児が増加する。 母子保健医療対策総合支援事業など次世代育成対策が推進される。 昭和の時代より愛育会活動が活発な地域であり、母子保健に対する支援は行政ばかりでなく地域でも子育て支援などが積極的に行われてきた。近年、少子化や高齢化により愛育活動に課題があり、今後は以前のように地域で母と子を支援できる体制の継続は難しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進課のアンケートでは、「子育てしやすい環境だと思ふ」、「子育て支援の事業が増える」とい、「親子で参加できる食育事業を希望する」、「おむつの助成事業は助かっている」という声がある。 産前産後ケアセンター利用者は、本市は子育て支援事業が利用しやすいと評価してくれている。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	13				
関連事業予算額(単位:千円)	104,412				
(予算額の内訳)	国庫支出金	8,969			
	県支出金	4,165			
	地方債	0			
	その他	919			
	一般財源	90,359			

(1) 目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		・成果指標①：年度末に新型コロナウイルス感染症の拡大があり、乳幼児健診を中止にした。そのため、未受診だったケースが受診の機会がなかったことが一因だと考えている。また、受診を控えたケースもいる。 ・例年より養育医療申請者が増加し、生後4か月以上まで入院期間が長期化した。そのため、対象健診日で受診することが出来なかったケースが多かった。 ・成果指標②：子育てが楽しいと回答した母が少なかったのは、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛も少なからず影響していると考えている。また、育児相談者が増加していることから、育児不安のある母が多くなっていると推測する。
(2) 時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		・成果指標①②：共にやや減少傾向。新型コロナウイルス感染症が少なからず影響している。 ・成果指標②：育児不安がある母が増えているのか、個別の健康相談利用者が増加している。
(3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		・成果指標①：乳幼児健診受診率は同規模の市ではほぼ同じ状況。 ・成果指標②：子育てを楽しいと感じる母の回答は、50～70%であるため、本市の状況の方が高い水準であると思われる。

7 基本計画期間における施策方針

(1) 施策の基本方針
・包括支援機能を充実させ、妊娠期から母の気持ちに寄り添いながら途切れなく育児支援出来る体制を継続及び強化させていく。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R2年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R3年度)の方針

基本事業	今年度(R2)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R3)の方針
1 妊娠出産育児の支援	【取組み】 ・妊娠届出時よりケアプランを立て、地区担当保健師や状況により助産師が一人ひとりと面接して対応している。 ・その後は、マタニティスクール、出生時連絡、乳児訪問、乳幼児健診などで、その時期における母の不安に寄り添いながら、個別支援をしている。 【課題】 ・妊娠届出時より複雑な背景を持つケースが増えていて、出産まで連絡が取りにくいケースが多い。他機関と連携しながらの支援が必要。子ども家庭総合支援拠点との連携を構築し、より重層的な支援を目指して行く。	・取組みの継続 ・随時相談を入れながら、継続支援を行っていく。 ・子ども家庭総合拠点整備に向けて他機関及び部内連携を図る。
2 適切な健康管理に向けた支援	【取組み】 ・乳幼児健診や個別健康相談などを通じて、母と共に児の発育及び発達の評価をしている。 【課題】 ・継続した健康管理が出来るよう支援していく。	・取組みの継続 ・子ども家庭総合拠点整備に向けて他機関及び部内連携を図る。 ・医療機関において一元的健康管理が出来る電子母子手帳の活用などを紹介していく。
3		
4		
5		